

江戸川区は地球温暖化防止のため、「もったいない運動」や地域版 I S O 「エコカンパニーえどがわ」などの取り組みを進めています。

江戸川区地域エネルギービジョンの策定にあたっては、これらの活動を踏まえ、区民、事業者、区が一体となり、ごみ減量やリサイクルをはじめ、さまざまな省エネルギー活動や新エネルギー導入等の推進を検討してまいりました。この度、皆様からいただいた貴重なご意見は、今後の推進に向けて活かしてまいります。

いただいた、ご意見及び区の考え方は次の通りです。

パブリックコメントに寄せられたご意見及び区の考え方

No.	意見の概要	区の考え方
1	<ul style="list-style-type: none"> 炭酸ガスの温暖化効果により地球温暖化が進んでいるといいますが、火力・原子力発電の温排水エネルギーによる海水の温度上昇が、温暖化の主原因ではないかと思えます。また、水蒸気による影響や海水の温度上昇による影響を考慮すべきと考えます。対策としては、効率の低い火力・原子力発電を減らして、台風のエネルギーを利用することや発電船による洋上風力発電を実現すること、水素の輸送、大容量二次電池の開発などがあろうかと思えます。 	<ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化問題に係る科学的な知見について、今後とも最新の情報の入手に努めます。また、新エネルギー等の導入対策については、区の地域特性を踏まえ、着実な推進を図ります。
2	<ul style="list-style-type: none"> ごみ処理について、来年4月からほとんどの廃プラを可燃ごみとして燃やす「サーマルリサイクル」が実施予定ですが、有害化学物質を大量に生成する可能性があり、江戸川区の豊かな水や緑を傷つけるのではないかと心配です。安全確認はできているのでしょうか。プラ製品は貴重な石油資源を使ったものなので、徹底的に分別リサイクルして資源として活用して欲しいです。 エコタウンを積極的に推進するため、学校給食の生ごみから堆肥を作り、学校に有機農法の菜園を創ってはどうか。種蒔きから収穫までの全てのプロセスに関わることで、命の尊さやつながりを学ぶことができます。 	<ul style="list-style-type: none"> 廃プラスチックの分別回収をはじめとして、積極的なごみの減量やリサイクルの推進に引き続き取り組んでまいります。また、ごみ焼却施設の排出ガスは、排ガス洗浄設備等の処理設備により有害物質を除去しています。さらに、排出ガス中の有害物質濃度について定期的にモニタリングを行い、有害物質による影響が生じることのないよう努めています。 給食の堆肥化等の施策については、すでに実施しています。
3	<ul style="list-style-type: none"> このビジョンの内容を実行するとき、誰がどのように推進していくかが分かりづらく、特に、事業所に対しては、どこまで強制力をもった方法で実行するのか分かりません。単なる計画に終わらせないためには、具体的な手法を明記する必要があると思えます。 	<ul style="list-style-type: none"> 第6章の推進体制に示したように区民、事業者、区、えどがわエコセンターが連携して推進する組織を作ります。事業者においても、エコカンパニーえどがわへの登録や第3章に示した事例に率先して取り組み、CO2削減を実現することが有効と考えています。
4	<ul style="list-style-type: none"> エコタウンえどがわ推進計画の柱になるべき第1章に扉絵が欲しいです。また、江戸川区がめざす「日本一のエコタウン」イメージ図があると良いです。 第3章と第4章の順番は逆だと考えます。第4章の「協働を支える区の取り組み」の基本方針によって、第3章の「目標達成のための区民・事業者の取り組み」が推進出来るからです。 第5章の「今後検討する取り組み」の各プロジェクトの展開を考慮し、第4章の目標達成の取り組みの数値計画に組み入れてはいかがでしょうか。 第6章の「計画の推進」の推進体制が重要だと思います。「エコタウンえどがわ推進協議会」の構成図では、区民、事業者、区、えどがわエコセンターを纏められる体制が伺えません。「日本一のエコタウン」を実現するためには、区の中に、仮称「エコタウンえどがわ協議会推進室」等のセクションを設置して、計画、実施、評価、反映を行うことが肝要であると思えます。 	<ul style="list-style-type: none"> 第1章は区民のみなさんに、江戸川区が目指す「日本一のエコタウン」をご理解いただけるよう、わかりやすいマンガ形式で作成します。 第3章を先に示したのは、区民、事業者のみなさんの積極的な取り組みが重要であるからです。 第5章の各プロジェクトについては、今後プロジェクトの具体化を図っていくものであることから、数値目標には組み入れておりません。プロジェクトの立案段階において、効果を算定し、的確な事業の実施に努めます。 第6章の推進体制に示したように、区民、事業者、区、えどがわエコセンターが連携して推進する組織をつくり、「日本一のエコタウン」を目指した取り組みを進めていきます。

No.	意見の概要	区の考え方
5	<ul style="list-style-type: none"> 2012年及び2017年までのCO₂削減目標の内、家庭のもったいない運動による削減が、全体の削減目標の60%を超えています。全体の13%に過ぎない家庭の発生分から削減するだけでは、削減効果は少ないと思います。 生ごみの堆肥化は、可燃ごみを減らす上で非常に有効です。しかし、リサイクル講習会だけでは不十分であるため、各家庭をはじめ、食品を扱う事業所などでも生ごみ堆肥化を実施するための抜本的な施策を講ずるべきだと思います。生ごみ集積所の設置や集合住宅などへの大型生ごみ処理機の設置、堆肥化事業者の育成など、先進例に倣ってすぐにも準備すべきです。 「日本一のエコタウン」という表現はやめた方がよいと思います。それよりも京都議定書目標の早期達成を目標にして世界にアピールすべきではないでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 区の温室効果ガス排出量の32%を家庭が占めており、今後とも増加する傾向です。区民一人ひとりの取り組みが非常に重要です。この計画は、一人ひとりのCO₂一日1kgの削減の積み重ねによって、第1次目標の16万トン削減達成を実現します。 生ごみをはじめとするごみの減量には、引き続き積極的に取り組みます。生ごみの堆肥化などの具体的な手法については、ご意見も参考にしながら、検討してまいります。 「一人ひとりが環境に配慮して暮らすまち」これが「日本一のエコタウン」です。地球温暖化対策の先進的な取り組みを江戸川区から発信し、日本一のエコタウンを目指します。
6	<ul style="list-style-type: none"> 江戸川区独自の思い切った対策が必要であると思います。区民の取り組みによる「もったいない運動」も大事だと思いますが、普及啓発にコストをかけるより、より実際的に効果のある対策が有効だと思います。白熱電球から省エネ型蛍光電球への取替えに、2500万円以上を充ててはどうでしょうか。区が5万個を購入し、白熱電球との交換を無償提供してはいかがでしょうか。CO₂削減へ協力したうえ、電気代も1/5になり区民にとっても有益です。 	<ul style="list-style-type: none"> 区民一人ひとりが環境に配慮した暮らしを行い、温室効果ガスの排出の少ないエコタウンを実現することがこの計画の目的です。そのため、「もったいない運動」の推進を中心に様々な取り組みを進めます。具体的な取り組みの実施にあたっては、取り組みの効果を踏まえて、適正な実施に努めます。
7	<ul style="list-style-type: none"> 第4章の第4節の④3Rの推進の「焼却灰溶融スラグの利用」について、スラグの危険性について確認をお願いします。エコセメント工場付近の大気汚染、水質汚染や使用後の溶融スラグの飛散による有害物質など。 ごみの減量こそが1番に取り組みなければならない課題です。もったいない運動で無駄を省く生活に変える意識改革に力を入れて下さい。 	<ul style="list-style-type: none"> 区では、ごみの減量、リサイクルの推進など3Rの取り組みを中心に進めてまいります。そのうえで、焼却灰の溶融スラグに関する工業規格に準拠した適正なスラグの利用を行っています。製造過程における環境情報にも十分に留意して、安全性の確保に努めています。